

集う人により変わる「会」のかたち：
安居睦寿会を例に

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学分野 公開日: 2024-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山口, ほなみ メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000600

集う人により変わる「会」のかたち

～ 安居睦寿会を例に～

山口ほなみ

- 1 はじめに
- 2 安居睦寿会の組織・会員・活動
 - 2.1 組織
 - 2.2 会員
 - 2.3 活動
- 3 安居睦寿会に集う女性たち
 - 3.1 会長になった A さんの取り組み
 - 3.2 集いを楽しむ女性会員
- 4 考察：集う人により変わる「会」のかたち
- 5 おわりに

1 はじめに

本章では、静岡市駿河区安居（以下、安居とする）の老人会である安居睦寿会が、どのような活動をしているのか、そして、時間の流れとともに集う会員の顔ぶれが変わったことで会がどのように変化してきたのかについて、安居睦寿会の会長や会員の語りをもとに明らかにする。

安居睦寿会は、高齢者が多い久能で唯一の老人会である。静岡市が実施している「5歳階級別・学区別人口」の統計資料をもとに久能の高齢化率の変化を見ると、2013（平成 25）年9月30日の調査では36.62%であったのが、2023（令和5）年9月30日時点では46.07%となっている（静岡市ホームページ 2013; 2023）。このデータからは、久能ではこの10年間で高齢化がかなり進んでいることがわかる。このように、久能は超高齢社会であるにもかかわらず、老人会が一つしかない。このことに関心を持った私は、久能で唯一の老人会である安居睦寿会にどのような人が参加し、どのような活動をしているのかを知りたいと思い、今回の調査を実施することにした。久能の最も東に位置する駿河区根古屋で偶然話を聞くことができた方によれば、久能では老人会に入っていないなくても、ご近所同士でおしゃべりをしたりいらぬ物や余り物をおすそ分けしたりする交流や付き合いがあるという。また、安

居睦寿会会長の A さん（女性、80 代、安居住）によると、安居睦寿会は現在女性会員が中心となって活動しているが、以前はそうではなく、少ないながらも男性会員も活動に参加していたという。このように、老人会に入らないという選択をする人もいるなかで安居睦寿会が存続し続けてきたことや、集う会員が変化していることに着目しながら、私は次のことを明らかにしたいと思う。一つは、老人会に入らない人も多い久能で唯一存在する安居睦寿会にはどのような人が参加し、どんな活動をしているのかであり、もう一つは時間の経過に伴って会のかたちがどのように変化してきたのかである。

以上の問いを立てる本章では、まず次の第 2 節において安居睦寿会の組織、会員、活動について記述する。また、第 3 節では、安居睦寿会に集う女性たちが、どのように活動に参加しているのかについて明らかにする。そして、第 4 節では、集う人により変わる「会」のかたちについて、人と人との間でやり取りされるモノや、人を取り巻く環境にも着目しながら考察する。

2 安居睦寿会の組織・会員・活動

本節では、久能で唯一の老人会にどのような人が集まり、どのような活動をしているのかを明らかにするために、安居睦寿会の組織、会員、活動について安居睦寿会会長の A さんの語りをもとに記述していく。

2.1 組織

安居睦寿会は、第 1 節でも述べたように久能で唯一の老人会である。A さんによると、2015（平成 27）年度以前には安居以外の町内にも老人会は存在していたが、会長の後継者がいないことや事務仕事の大変さ、また老人会という組織に入るより仲間同士のグループ活動を好む人が多いなどの理由からなくなってしまったという。

安居睦寿会は、一般社団法人静岡市老人クラブ連合会（以下、市老連とする）に所属している。安居睦寿会の運営に携わる役員は、会長、副会長、会計、女性委員と安居の隣組の組長であり、このうち組長以外は 3 月の睦寿会の総会において会員同士の話し合いのもと決めている。役員に任期はなく、同じ人が何年も役職に就くことがある。たとえば、A さんは今年度、10 年間役員を務めた 3 名の会員を 10 年功労者として推薦したという。A さん自身も、会長を務めて今年で 9 年目を迎える。会長の仕事は、月に 1 回、市や区で行われる会合に出席したり、会員に配る会報や年間予定表を作成したり、毎月の集まりや旅行、行事などの計画や準備、運営をしたりするなど多岐にわたる。また、副会長は会長補佐を、会計は収入と支出の管理や会計報告を行う。さらに、女性委員は市や区の集まりに参加し、活動方針や活動について報告する。ほかにも駿河区の老人会の女性委員たちと、作品展で設けられる

女性委員の展示コーナーに作品を出展する準備や、展示期間中には観覧客の応対や展示物の見回りなどを行っている。各役員の肩書きとそれぞれの役割はあるものの、皆で協力しながら会を運営している。

活動を行うための資金は、会員から集める会費と市や区から出る助成金や支援金、安居町内会や安居にある安居神社などから受け取る補助金や謝礼金などである。集まった資金は、毎月の会合や旅行、忘年会などのイベントに必要な景品や食事代、作品展に出展する作品の材料費などに利用している。

このように、市老連に所属している安居睦寿会は、会長の A さんを中心に、非常に組織だった活動をしている。A さんは、「会員数は少ないながらも、他の団体に引けを取らないくらいにしっかりと活動している」と語っていた。

2.2 会員

次に、安居睦寿会の会員について述べる。安居睦寿会には、60 歳から加入することができる。2018（平成 30）年度の会員数は 42 名で、この年は会員拡大により、年 1 回の市老連大会で会員増強表彰を受けた。しかし、2023（令和 5）年現在の会員数は約 30 名に減少している。このうち、毎月の集まりや行事に参加するのは主に 8 名で全員が女性である。

会員数の減少の理由としては、会員が亡くなったり施設に入所したりすることが挙げられる。ほかにも、地域に親戚が多いことや、役員の大変さ、すでに存在する仲間同士のグループを好む人が多いなどの理由から、老人会という組織にわざわざ入ろうとする人が少ない。また、会員数に比して活動に実際に参加する人が少ないということの背景には、農家が多いという久能の特徴がある。たとえば、農家の仕事や家の手伝いで忙しいため活動に参加できない人もいる。また、久能では農家ごとに育てている作物が異なるため、繁忙期や出荷準備の時期もそれぞれ違う。そのため、安居睦寿会の活動に会員が一度に集まることが難しく、農家と老人会の両立ができない人が出てくる。さらに、A さんは少子化の影響についても語っていた。少子高齢化が進み子どもの数が少ない久能では、ママ友や婦人会のような子育て世代のグループもできにくい。そうした老人会の前段階にあたるグループの人たちが、高齢になったときにそのまま老人会に入ってくればいいが、子どもの数が少ない久能ではそれが望めないと話していた。

A さんは、2015（平成 27）年に前会長から会長を引き継いだ。前会長は男性で、このときの会計も男性だった。約 15 年前に安居睦寿会をやめた B さん（女性、70 代、安居在住）によると、前会長の頃には、常時 10 人から 20 人が活動に参加していたものの、やはり男性は少なかったという。また、A さんによると、前会長から A さんに会長が引き継がれたタイミングで辞めていった男性もいたという。しかし、前会長の頃には夫婦で活動に参加する人もいたため、少ないながらも男性もおり、現在のように全員が女性というわけではなかった。

以上見てきたように、久能では、高齢化がかなり進んでいるにもかかわらず、老人会に入

らない人も多く、安居睦寿会の会員数は増加していないのが現状である。また、活動への参加者も全員が女性であり、いわゆる「女子会」になっている。

2.3 活動

最後に、安居睦寿会の活動について述べる。安居睦寿会の主な活動は、毎月第3金曜日の「集いの日」の開催である。集いの日には、会員が安居にある安居公民館に集まり、歌や体操、レクリエーションや脳トレなどのゲーム、食事などを楽しむ。また、地域包括支援センターの職員や看護師を招き、交通安全や防犯についての教室、健康講座、介護保険制度についての勉強会なども開いている。

また、6月と10月には親睦旅行をする。現在では、主な女性メンバーのみが参加する小規模な旅行になっており、また体力的にも遠出が難しくなっているが、話を聞いた会員の女性たちは今年の親睦旅行も楽しみにしていると語っていた。ほかには、新年会や忘年会、クリスマス会や豆まき、ひな祭りなどの季節の行事に加えて、毎月8日に安居にある阿弥陀堂の維持管理のためのお参りや掃除などを行っている。

市老連に所属している安居睦寿会は、駿河区のスポーツ大会や駿河区と静岡市葵区の合同作品展、静岡市清水区も加わった3区の合同芸能発表会にも参加している。スポーツ大会のための輪投げの練習や出展作品の制作、また芸能発表会で披露する踊りの練習などを集いの日に行っている。このうち、作品展に出展するちぎり絵の創作は、Aさんとちぎり絵を得意とする会員のCさん（女性、80代、安居住）が始めたことがきっかけだった。前会長の時代にCさんがちぎり絵をやってみたいと声をあげ、Aさんがそれに協力するかたちで2013（平成25）年から始まった。最初は個人で作品を作っていたが、次第に参加者全員で合同作品を作るようになった。これまであじさいやひまわりなどの花や干支にちなんだ作品などを作って出展している（写真1）。Aさんによれば、ちぎり絵の創作は今年で10年目という節目を迎えるため、今年で最後になるかもしれないとのことだった。また、次にやるなら参加者が合同で創作する折り紙はどうだろうかという案を話していた。



写真1 2022年度のシニアクラブ静岡市作品展に出展した安居睦寿会のちぎり絵作品
(2023年5月29日、山口撮影)

ちぎり絵以外にも、Aさんが会長になって新たに始まった活動がある。たとえば、Aさんが会長になった2015（平成27）年から始まったミニ敬老会やミニ運動会である。ミニ敬老会とは、高齢者である自分たちを自分たちで祝う会として、毎年9月半ばに安居睦寿会で行うイベントである。還暦、古希、喜寿、米寿、白寿など年齢別でお祝いをし、手作りの記念品や食事、寄せ書きをした色紙のプレゼントなどで高齢者を祝う。また、毎年10月に行うミニ運動会では、Aさんが毎年ゲームの種目やプログラムの順番など内容を企画しており、これまでにスプーンリレーや輪投げでビンゴなどのゲームをやってきたという。今年のミニ運動会では、パン食い競争や神経衰弱などを考えていると語っていた。

また、Aさんは、会員が活動に参加してくれるようにという期待も込めて、会員全員に一言メッセージを添えて誕生日プレゼントを渡す誕生日会を行っている。Aさんは、この誕生日会について、普段活動に参加していない会員とも友愛訪問というかたちで交流ができるため、そこからつながりが生まれていくといいな、という思いを語っていた。そして、こうした活動を通して久能をPRするために、新聞社に取材を依頼し記事にしてもらう活動も行ってきた。

本節では、安居睦寿会の組織、会員、活動について述べてきた。安居睦寿会では、会長の

Aさんをはじめとする役員が中心となって、皆で協力しながら会を運営している。また、さまざまな理由から会員数や活動参加者が減少しているものの、月に1度の集いの日をはじめ、旅行や新年会、クリスマス会、ミニ敬老会など、年間を通してさまざまな行事を開催している。以上をふまえて第3節では、安居睦寿会に集う女性会員の語りを取り上げ、女性たちが現在どのようなかたちで活動に参加しているのかについて記述する。

3 安居睦寿会に集う女性たち

第2節では、安居睦寿会の組織、会員、活動について記述してきた。本節では、会長のAさんおよび他の女性会員から聞いた話をもとに、それぞれ女性たちがどのような人生を歩み、どのような経緯で安居睦寿会に入ったのか、また現在どのようなかたちで活動に参加しているのかについて見ていく。

3.1 会長になったAさんの取り組み

はじめに取り上げるのは、安居睦寿会会長のAさんである。Aさんがどのような人生を歩んできたのか、また会長として会に関わることになったAさんが、どのように会を運営しているのかについて記述する。

〈事例1 Aさん（女性、80代、安居住住）〉

安居睦寿会会長のAさんは、静岡市駿河区国吉田の東源台学区出身で、1970（昭和45）年に久能にある夫の家に嫁いできた。嫁いだ後も、公務員として保育園に40年、児童館に3年、合計43年にわたって福祉職に携わってきた。キャリアウーマンだったAさんは、現役時代は地域との関わりが少なかった。しかし、退職後これから地域で何かできることはないかと思案していたとき、近所に住む女性（当時86歳）に誘われ安居睦寿会に入会した。その後、2015（平成27）年に会長を引き継ぎ、今年で9年目を迎える。Aさんが会長になる以前は女性の会長は珍しかったというが、Aさんにとって、会を中心的に運営する役割を担うことは苦でなかったため、会長になることにそこまで抵抗はなかったという。

Aさんは、会長になってから会報や予定表、会計記録などを作成し、記録簿として保管、整理している。これらはAさんが始めたことで、それ以前の記録はあまり残っていない。毎月の会報には、先月の活動報告や今月の予定、誕生日を迎える会員の紹介やお祝いメッセージなどが書かれている。また、会報だけでなく、話し合いや活動の内容を記したレジュメや記録の保管、スポーツ大会の日程表の作成、旅行や行事のお知らせなども徹底して行っている。そうすることで、その日の活動の流れを正確に把握することを心がけていると語っていた。

Aさんは、会長を引き継ぐ際に、仕事や活動内容について特に人から教えてもらう機会はなかったという。そのため、会報や予定表などの作成や、ミニ敬老会やミニ運動会などの新しいイベントの企画などを自由に始めることができた。会報の作成については、保育園に勤めていたときにクラス通信などのお便りを作成していた経験が役に立っているという。また、新規の取り組みや行事を進めていくときには、働いていた頃に担当した新設の保育園や児童館で培った、自分で一から作り上げていくという「開拓」の経験を活かすことができたと言っていた。

またAさんは、なかなか集まりに顔を出せない会員とのつながりも大切にしている。たとえば、新年会や忘年会、クリスマス会などの行事の際に用意するプレゼントを、当日に参加できなかった会員にも渡しに行くとのことだった。また、会員が施設に入所して会の集まりやイベントに自由に参加できなくなったとしても、つながりや関係を途絶えさせない工夫をしている。具体的には、他の会員と変わらず会報を配ったり、誕生日のプレゼントや旅行のお土産を渡したりしているという。さらに、会報や配布物を渡す際には、返信用の便箋や封筒を一緒に入れて、常にコンタクトが取れるように、また関係が一方通行にならないように工夫している。そうすることで、いつか偶然でも出会えたときに、「この前はありがとう」などの会話が生まれたらいいな、と言っていた。また、メンバーは主に高齢であるため会員が亡くなることもある。その際には、香典を渡したり会報で訃報のお知らせをしたりしているという。

最後に、Aさんは安居睦寿会の今後について、会員数や活動参加者の減少を課題に挙げていた。その課題を解決する手立てとして、会報の作成や誕生日会の実施における工夫や、会員の意見、要望などを聞くアンケート調査を考えていると話していた。

ここまで、Aさんのライフストーリー、会長になってからの取り組みについて見てきた。Aさんは、仕事をしていた頃は地域との関わりが少なかったが、退職後に地域と関わろうとしているなかで安居睦寿会に入会した。2015（平成27）年に会長を引き継いでからは、資料を適切に整理し保管して活動の記録を残したり、ミニ敬老会やミニ運動会などの新しいイベントを始めたりするなど、これまでなかった方法で会を運営してきたことがわかる。また、そうした会の運営には、かつて仕事で培った経験が活かされている。ほかにもAさんは、集まりに顔を出すのが難しい会員との関係を維持するための工夫もしている。保育園や児童館に長年勤務してきたキャリアを持つAさんが会長になったことで、安居睦寿会は以前より活動的になったといえる。また、第2節1項でも記述したように、現在の安居睦寿会は女性会員のみのいわば「女子会」になっている。このように、会に関わる顔ぶれが変わったことで、安居睦寿会のかたちにも変化が起きたことがわかる。

ここまで、安居睦寿会の会長として会の運営を中心的に担っているAさんの語りを取り上げてきたが、それ以外のメンバーは会の集まりやイベントにどのように参加しているのだろうか。次項ではそのことについて見ていく。

3.2 集いを楽しむ女性会員

私は、調査期間中の 2023 年 5 月 29 日（月）の午前 10 時から 12 時頃にかけて、会長の A さんと女性メンバー 4 名の計 5 名に安居公民館に集ってもらい話を聞く機会を得た。ここではまず、そのときの女性会員たちの様子について記述する。また、そのうちの一人である D さん（女性、80 代、安居住）に聞いた話から、女性会員が安居睦寿会の定期的な集いや行事にどのように参加しているのかについて記述する。

〈事例 2 2023 年 5 月 29 日（月）、安居公民館に集まった女性会員たちの様子〉

いつもの活動場所である安居公民館に集まった女性たちは、互いの顔がよく見えるように円になって座ると、誰とはなしにおしゃべりを始めた。「朝は何していたの」「昨日はどこに行っていたの」などと楽しそうに歓談する姿からは、互いに顔を合わせられたことが嬉しそうな様子が見えかけた。

4 名の女性会員は皆 80 代で、そのうち 3 名は結婚を機に婚家のある久能に移り住んだという。A さんが会長になる前の安居睦寿会について尋ねると、女性たちは昔の久能や安居睦寿会の思い出を懐かしそうに語ってくれた。しかし、会員数や活動参加者が減少している現状をふまえると、安居睦寿会を残していくのも限界に近いかもしれないという言葉や、現在の安居睦寿会は風前の灯火のようだという声も聞かれた。一方で、いつも同じ顔ぶれでも、それはそれで気を遣う必要がないため居心地が良いという声もあり、限られたメンバーで楽しめる方法を見つけていきたいと語っていた。

また、安居睦寿会の活動を会長として引っ張っている A さんに対して、「ここまで色々やってくれる A さんはすごいと思うし感謝している」と話していた。女性たちは、会報や予定表の作成、活動の計画や運営など、あらゆる仕事を果たす A さんに対して尊敬と感謝の気持ちを持っているようだった（2023 年 5 月 29 日安居公民館にて）。

以上が安居公民館に集まった会員の様子である。このときは、調査を理由に特別に集まってもらったのだが、楽しそうに歓談する姿や顔を合わせられたことが嬉しそうな様子は、定期的な集いにおいても変わらないのだろうと思えた。女性たちは、会員数や集いに顔を出す会員の数が減少していることを受け止めつつも、「女子会」に近い現在の安居睦寿会に参加することを楽しんでいるように感じられた。なお、この日の集いに参加していた女性会員の D さんにインタビューすることができた。以下、その内容を紹介する。

〈事例 3 女性会員 D さん（女性、80 代、安居住）〉

D さんは、1957（昭和 32）年に集団就職のため新潟から静岡に来た。また、同年に結婚し、婚家のある久能に移り住み、農家の仕事の手伝いを始めた。D さんは、以前から安居睦寿会の会員だったが、活動に参加し始めたのは約 2、3 年前からで、今年は女性委員を担当

している。

Dさんは、現在安居で一人暮らしをしており、今は農家の仕事もしていないため、人と会う機会が少なくなっている。1日に1回、人と顔を合わせないと寂しいと言い、外に出て人と会い、会話をするという人との接触が大事であると話していた。そのため、集いの日やイベントを通して安居睦寿会の女性たちと定期的に会うことを楽しみにしている。また、会員の女性たちとは、安居睦寿会の集まりや活動以外の日常においても交流がある。たとえば、「今から家にお邪魔してもいい？」と声をかけたり、会員の女性と一緒に話をしたりお酒を飲んだりすることがあるという。会員同士の関係は、会を超えた日常の場面においても維持されている。

以上のDさんの事例から、安居睦寿会は、女性たちが顔を合わせてお話を楽しむ集いの場や居場所になっているとわかる。また、集いの日や行事などの際に安居睦寿会として集まるだけでなく、会とは関係のない日常生活でも会員同士の交流があることもわかった。

本節では、安居睦寿会の女性会員たちに焦点をあて、そこにどんな人が集まっているのかを記述してきた。そこからは、安居睦寿会が女性たちの集いの場、居場所となっていることや、会に関わる人が変わることでの会の在り方が変わることも明らかになった。以上をふまえて第4節では、集う人によって「会」のかたちが変わることについて、「アクターネットワーク理論」の視点から考察する。

4 考察：集う人により変わる「会」のかたち

本章では、久能で唯一の老人会である安居睦寿会について取り上げた。第2節では、安居睦寿会の組織、会員、活動について記述し、その概要を把握した。また、第3節では会長のAさんをはじめとする女性会員たちに焦点をあて、女性たちがどのように活動に参加しているのかを明らかにしてきた。そこからは、安居睦寿会が女性たちの集いの場、居場所となっていることや、会に関わる人が変わることでの会の在り方も変わるということが見えてきた。

Aさんは、インタビューのなかで「誰が会長になるかによって活動も変わる」と話していた。その例としては、Aさんが会長になったことで、前会長のときにはなかった取り組みや活動が新たに始まったことが挙げられる。その一つである会報に着目すると、文字ばかりになるのを避け読みやすくなるように、Aさんなりの工夫が多く見られる。たとえば、Aさんは手書きではなくパソコンを使って会報を作成しているが、レイアウトを工夫したり吹き出しを使ったり、また塗り絵用のイラストを入れたりしている。そうすることで、会員が読んでいて楽しめるような会報になっている（写真2）。第3節1項でも記述したように、A

さんが長年職場で培った経験は、安居睦寿会で新たに始めた活動に役立っている。また、Aさんがさまざまな活動や行事を企画するのは会員を楽しませたいからだと言っており、それが楽しいと言っていた。

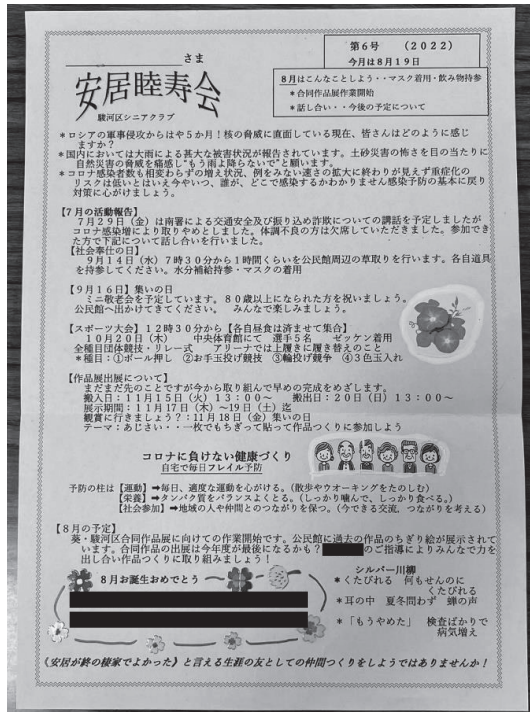


写真2 2022年8月19日の安居睦寿会の会報 (2023年5月29日、山口撮影)¹

このように、かつての久能では数少ないキャリアウーマンだったAさんが会長になったからこそ始まった活動があり、また会員の言葉がきっかけで始まったり変わったりした活動もあった。そうした活動のなかでは、Aさんが工夫を凝らして作成している会報、集う会員全員で作上げたちぎり絵、会員間の関係が途絶えないように贈る誕生日プレゼントや旅行のお土産など、さまざまなモノを介したつながりが見て取れた。このように、安居睦寿会という「会」を見ていくなかで、そこに集う人や、その間でやり取りされるモノが「会」を作る重要な要素であると私は感じた。このことについて、「アクターネットワーク理論」を参考に考察していく。

アクターネットワーク理論とは、ブリュノ・ラトゥールが著書『社会的なものを組み直す——アクターネットワーク理論入門』(2019)で提唱した理論である。ラトゥールは、社会

¹ 個人情報に関わる部分は黒く塗りつぶした。

とは人間だけでなくモノや環境のようなあらゆるものの相互作用によって成り立っており、それらの連関が変化することで社会も変わっていくと説明している（ブリュノ・ラトゥール 2019）。これを安居睦寿会に当てはめると、まず集う「人」が安居睦寿会を作り上げる重要な存在であるといえる。第2節1項で述べたように、安居以外の町内では集う人がいなくなったため老人会はなくなってしまったが、今も集う人がいる安居睦寿会は「女子会」になりつつも活動を続けている。また、Aさんが会長になったり会員の言葉がきっかけで新しい活動が始まったりしたように、関わる人の顔ぶれが変わったことで「会」も変化した。このことから、集う人がいるからこそ「会」が成り立つのであり、また集う人の変化に伴って「会」のかたちも変わっていくといえる。

また、人だけでなく会報やちぎり絵、誕生日プレゼント、お土産といった「会」の活動を通してやり取りされるモノも、安居睦寿会を作り上げている一つの要素といえる。なかでもちぎり絵は、作品展に展示した作品としてだけでなく、会員の皆が共同で作上げたという思い出とともに残るモノである。第2節3項で述べたように、ちぎり絵の制作が今年で終わるのであれば、ちぎり絵というモノを介した営みが安居睦寿会からなくなることになり、それもまた「会」が変わっていくきっかけになるとと思われる。このように、安居睦寿会の活動のなかでやり取りされるこれらのモノも、非人間ではあるが「会」を作り上げかたちを変化させている。

安居睦寿会のなかで交わされるモノには、いつも集う顔見知りの女性会員が私的にやり取りするモノもある。たとえば、集いの際に会員が持ち寄るイチゴや葉ショウガ、ネギなどの久能の特産品を使った料理がこれに当てはまる。集いの場に持ち込まれるこれらのモノは、一対一の間でやり取りされるのではなく、集まった会員全員に行き渡る。そのような複数の会員の間で交わされる私的なモノのやり取りでは、会員がそれぞれ好きなききに野菜や料理などのモノを持ち寄ることにより、あげっぱなしの人ももらいっぱなしの人もいない「互酬」が成り立っているのではないだろうか。

このように互いが所有するモノなどを贈り合う行為を「贈与」として分析したマルセル・モースは、著書『贈与論』において、贈与を通して人と人との間につながりが生み出されると述べている（モース 2014）。安居睦寿会においても、いつも集う会員が互いにモノをあげたりもらったりするやり取りが、会員間のつながりや人間関係を作り、安居睦寿会を女性たちの居場所に行っているのではないだろうか。こう考えると、そうした私的なモノのやり取りも「会」の在り方に関わっているといえる。そして、第3節2項で記述したDさんの事例で、会員同士互いの家を行き来するという「会」を超えた交流があると述べたように、「会」での人間関係は「会」の外の普段の暮らしにおいても大切なものとして維持されていることも見て取れる。

さらに、安居睦寿会でやり取りされるモノに加え、農家が多く高齢化が進んでいるという久能の「環境」にもここでは着目する必要があるだろう。農家が多いという久能の特徴は、会員が安居睦寿会の活動に参加するのが難しい理由の一つであった。また、高齢化が進んで

いるにもかかわらず、会員数は増えていないという現状にも直面していた。こうした安居睦寿会を取り巻く環境も、非人間ではあるが「会」のかたちの在り方に影響しているといえる。このように、人間と非人間、つまり人、モノ、環境の連関のなかで安居睦寿会という「会」が作られ、かたちを変えながら存続してきたのではないだろうか。

そして、この先も「会」に関わる人の顔ぶれやそこでやり取りされるモノ、人々を取り巻く環境が変わっていくことで、安居睦寿会の在り方も変化していくといえるだろう。

5 おわりに

本章では、安居睦寿会を例に、集う人により変化する「会」のかたちについて考察した。インタビューを振り返ると、会長になり自分で一から作り上げていくことの楽しさを笑顔で語る A さんの姿が特に印象に残っている。働いていた頃の経験を今度は安居睦寿会で活かし、今もなお会長として生涯現役を貫く A さんのお話を聞くことができたのは、私にとって貴重な体験だった。

謝辞

本調査を行うにあたり、たくさんの方にご協力していただきました。お忙しいなか、突然の訪問にも快く応じてくださった皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

参考文献

静岡市ホームページ

- 2013 「5歳階級別・学区別人口（総数・男・女）」（2023年10月18日閲覧
<https://www.city.shizuoka.lg.jp/000994540.xls>）。
- 2023 「5歳階級別・学区別人口（総数・男・女）」（2023年10月18日閲覧
<https://www.city.shizuoka.lg.jp/000152699.xls>）。

モース、マルセル

- 2014 『贈与論 他二篇』 森山工訳、岩波書店。

ラトゥール, ブリュノ

2019 『社会的なものを組み直す——アクターネットワーク理論入門』伊藤嘉高訳、法政大学出版局。